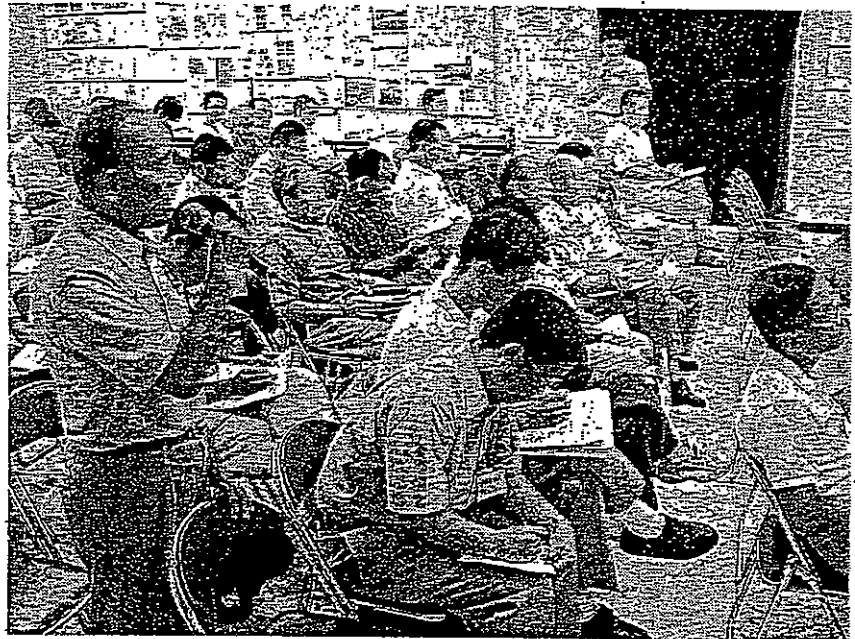


平成13年8月6日 静岡新聞朝刊(西部版)

# 太田川整備計画案を 流域の4カ所で説明

袋井土木事務所

太田川の整備方針について県が計画案を公表した  
流域住民説明会(森町町民生活センター)



二級河川太田川水系の河川整備計画を取りまとめている県袋井土木事務所などが四日から五日にかけて、袋井市や森町など流域四カ所で

整備計画案の住民説明会を開いた。河川整備計画はおおむね今後二十年間の河川整備の基本方針。袋井土木事務所は県内の

ほかの二級河川に先立ち六月末までに、有識者らでつくる流域委員会の助言を受けて太田川水系の河川整備計画案を取りまとめた。

説明会は四日に掛川、袋井両市、五日は森、磐田の両市町で開き、袋井土木事務所、県河川企画室、太田川ダム建設事務所が担当だが、計画案に盛り込んだ生態系や景観、親水性を考慮した河川整備のコンセプトや具体的な施工案について来場者に伝えた。

袋井土木事務所などは四会場で流域住民から寄せられた河川整備に関する意見を集約、検討した上で、近く関連市町村長との意見交換する。その後、国土交通省に同意を求め、年内には太田川水系河川整備計画を正式決定する予定。

また、流域住民から寄せられた意見は八月下旬以降、県のホームページ上に公開する。

太田川水系河川整備計画の意見交換会の開催周知方法について

太田川水系河川整備計画の意見交換会（説明会）を開催することについては、太田川流域の各市町村（山地の一部のみが含まれる春野町と菊川町を除く）の広報誌に、最寄りの会場に関する開催案内（日時、場所、問合せ先）を掲載することによって、住民への周知を行った。

市町村名	開催案内を掲載した 広報誌の号	左記の発刊日	案内した 最寄り会場
磐田市	平成 13 年 7 月 1 日号	平成 13 年 7 月 1 日	ワークピア磐田
掛川市	平成 13 年 7 月 1 日号	平成 13 年 7 月 1 日	生涯学習センター
袋井市	平成 13 年 7 月 15 日号	平成 13 年 7 月 16 日	袋井市総合センター
森町	平成 13 年 7 月 15 日号	平成 13 年 7 月 16 日	町民生活センター
浅羽町	平成 13 年 7 月号	平成 13 年 7 月 6 日	袋井市総合センター
福田町	平成 13 年 7 月 15 日号	平成 13 年 7 月 17 日	ワークピア磐田
竜洋町	平成 13 年 7 月号	平成 13 年 7 月 13 日	ワークピア磐田
豊田町	平成 13 年 7 月 1 日号	平成 13 年 7 月 1 日	ワークピア磐田
豊岡村	平成 13 年 8 月 1 日号	平成 13 年 8 月 1 日	ワークピア磐田

開催会場	開催日時
生涯学習センター	平成 13 年 8 月 4 日（土）午前 10 時～
袋井市総合センター	平成 13 年 8 月 4 日（土）午後 2 時～
町民生活センター	平成 13 年 8 月 5 日（日）午前 10 時～
ワークピア磐田	平成 13 年 8 月 5 日（日）午後 2 時～

## 2. 河川整備計画の計画対象期間

本河川整備計画は、太田川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その対象期間は概ね20年間とする。

本整備計画は、現時点における流域及び河川の状況に基づき策定されたものであり、今後の河川及び流域をとりまく社会環境の変化などに合わせて適宜見直しを行なっていくものである。

## 3. 洪水による災害の防止または軽減に関する目標

河道改修の規模は、近年で最大級の洪水となった平成10年9月洪水と同規模の出水が発生しても、洪水による被害を生じさせないで流下させることを目的とした河川整備を行う。この出水の規模は太田川では、概ね10年に1回程度の降雨により発生する出水で豊浜基準点では、 $3,200\text{m}^3/\text{s}$ の流量とする。また、太田川ダムについては、河川整備基本方針と同じ概ね50年に1度発生する洪水に対し、安全に洪水調節が行える構造とする。

また内水による被害が多いぼう僧川、今ノ浦川においても、平成10年9月洪水と同規模の降雨に対して大きな被害が発生させない対策を推進する。

さらに、計画高水を上回る出水の発生に対しては、情報伝達、水防体制を強化するなど、地域住民や関係機関と連携し被害の軽減を図る。

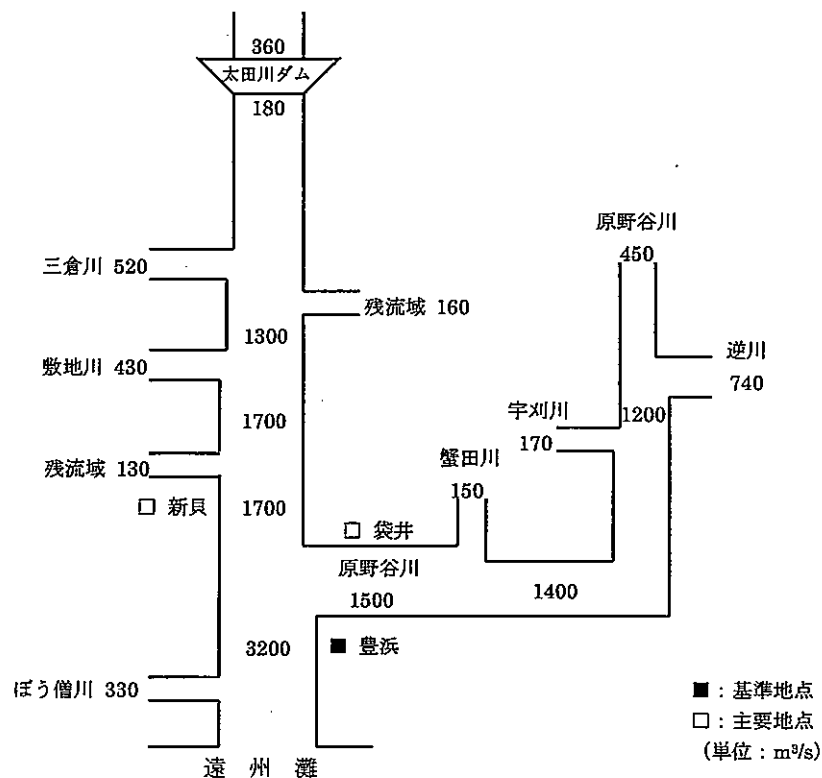


図-3.1 太田川水系計画高水流量配分図

2. 河川整備計画の計画対象期間

本河川整備計画は、太田川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その対象期間は概ね20年間とする。

本整備計画は、現時点における流域及び河川の状況に基づき策定されたものであり、今後の河川及び流域をとりまく社会環境の変化などに合わせて適宜見直しを行なっていくものである。

3. 洪水による災害の防止または軽減に関する目標

河道改修の規模は、近年で最大級の洪水となった平成10年9月洪水と同規模の出水が発生しても、洪水による被害を生じさせないで流下させることを目的とした河川整備を行う。この出水の規模は太田川では、概ね10年に1回程度の降雨により発生する出水で豊浜基準点では、 $3,200\text{m}^3/\text{s}$ の流量とする。また、太田川ダムについては、河川整備基本方針と同じ概ね50年に1度発生する洪水に対し、安全に洪水調節が行える構造とする。

また内水による被害が多いぼう僧川、今ノ浦川においても、平成10年9月洪水と同規模の降雨に対して大きな被害が発生させない対策を推進する。

さらに、計画高水を上回る出水の発生に対しては、情報伝達、水防体制を強化するなど、地域住民や関係機関と連携し被害の軽減を図る。

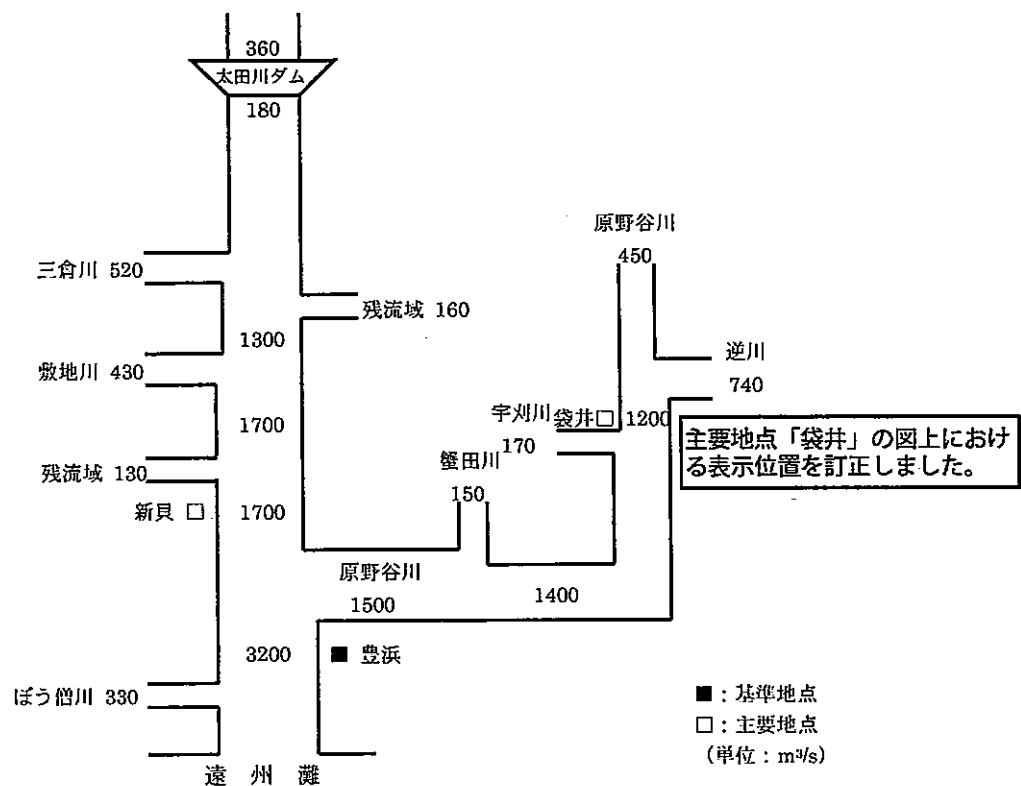


図-3.1 太田川水系計画高水流量配分図

# 太田川ダム建設事業に関する質問への回答 (Q&A)



平成13年3月

静岡県

1-2 太田川の目標治水安全度1/50とは、どの程度の洪水を予想しているのか。他の河川ではどうか。

目標治水安全度は、河川の大きさ、地域の社会的経済的重要性、想定される被害の量質および過去の災害の履歴などを考慮し決定されます。

目標治水安全度1/50とは洪水の起こる確率を表現したもので、わかりやすく表現すれば『50年に一回起こる洪水』のことです。しかし、洪水は大地震のような周期性は全くなく、不規則に発生します。ですから、去年起きたから今年はないと断言できません。(ある町で交通事故にあう人が1年間に100人の確率だとして、今日100人目の事故が起きたから、今年はまだ事故はないと断言できないのと同じです。)

この確率で想定されている雨量は、ダム流域では536.5mm/24時間、太田川流域では355.1mm/24時間です。

なお、静岡県が管理する代表的な河川の治水安全度は、下表のとおりです。

表2 県内主要河川の治水安全度

水系名	巴川	坂口谷川	湯日川	瀬戸川	太田川
河川名	巴川	坂口谷川	湯日川	瀬戸川	太田川
市 <sup>1</sup> 町村名	静岡・清水	榛原町	吉田町・島田市・金谷町	焼津市・藤枝市・静岡市・岡部町	磐田市・掛川市他1市7町1村
流域面積 (km <sup>2</sup> )	104.8	21.6	34.0	179.0	488.1
氾濫面積 (ha)	3,468	964	1,429	4,585	16,521
氾濫区域内人口 (人)	208,601	12,043	22,133	89,101	159,798
氾濫区域内資産 (百万円)	2,723,439	193,569	305,277	1,213,148	2,108,600
確率	1/50	1/50	1/50	1/50	1/50